

NEWS RELEASE

株式会社 エヌ・ティ・ティ・アド
マイボイスコム株式会社

子供の安全と携帯電話についてのアンケート

～日常生活の中での不安は、学校や塾などの行き帰り時の事故や犯罪～

小学生の親の9割が何らかの安全対策を実施
携帯電話のメリットは緊急連絡が取れること

株式会社エヌ・ティ・ティ・アド(以下「NTTアド」、東京都品川区、代表取締役社長:中山哲夫)とマイボイスコム株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長:高井和久)は、「子供の安全と携帯電話」をテーマに共同調査し、2006年3月9日～11日に2,021件の回答を集めました。本調査結果について発表いたします。

調査結果

【まとめ】

子供をめぐる環境の安全性が問題視される中、日常生活での不安を抱えている親は多いと思われます。携帯電話はこうした問題の解決の一端を担うツールとしても注目されており、子供を対象にした安全機能を盛り込んだ携帯電話が各社から次々と発表されています。そこで、今回の調査では、親の立場、子供の立場の双方から意識をとらえることを目的に、「安全」「コミュニケーション」に関する調査を行いました。その結果、「安全」「コミュニケーション」をめぐる、携帯電話に関する親の意識、子供の意識のギャップがみられることがわかりました。

◆日常生活の不安の一番は、「学校や塾の行き帰りに犯罪に巻き込まれること」 66%

親が子供の日常生活で不安に思っていることをたずねたところ、昨今の犯罪や事故をうけて、特に小学校1～3年の子供がいる親の70%以上が、「学校や塾の行き帰りに犯罪に巻き込まれること」(75.1%)、「学校や塾などの行き帰りに事故にあうこと」(73.1%)に不安を感じており、中学生の子供を持つ親でも50%以上が不安を感じていることがわかりました。また、「いじめや友達づきあいでトラブルにであうこと」も小学生の子供を持つ親で60%を超え、中学生の子供の親でも57.4%が不安に思っています。

◆安全対策では、「防犯ベル・ブザーを持たせている」が小学生1～3年生で71%

安全対策として何らかの対策をしている親は8割にのぼり、特に小学生1～3年生の親では9割が対策を講じていることがわかりました。具体的には、「防犯ベル・ブザーを持たせている」が全体で45.5%、特に小学生1～3年生では71.1%と多くなっています。中学生では、「携帯電話・PHSを持たせている」が38.4%と小学生の親(13%)の約3倍となっています。また、小学生では「送迎」や「パトロール」「集団下校」も40%近く、親が行う防犯対策の実施率が高くなっています。

◆小中学生の携帯電話所有率は28.9%

親を対象とした調査で、子供に携帯電話を持たせていると回答したのは全体で28.9%、非所有者のうちで持たせたいとの回答をしたのは65%（「すぐに持たせたい」6.6%、「いずれ持たせたい」58.4%、「持たせたくない」35.0%）となっています。携帯電話の所有を学年別で見ると、小学校1～3年生の子供で8.9%、小学校4～6年生で22.2%、中学生では55.7%でした。一方中学生自身の回答では、携帯電話を「持っている」のは中学3年生では78.3%にのぼりました。携帯電話を持たせ始めたきっかけは、「塾や習い事の連絡」「学校の行き帰りが心配」などが主な理由となっています。（図1、2参照）

また、携帯電話の使い方について、利用時間や機能の制約などのルールを子供との間に取り決めていると回答した親はほぼ5割にのぼりますが、一方、中学生の回答では使用時のルールを親と決めているとする回答は16%にとどまり、親の立場と子供の立場では、携帯電話を利用するにあたってのルールの認識にギャップがあることがわかりました。

◆中学生にとってケータイは「いつでも友達と会話ができる」「友達との仲が深まる」ツール

携帯電話のメリットは、親、小学生、中学生のいずれも「緊急時に連絡がとれる」が1位ですが、親と小学生では「離れていても親と会話できる」が次位であるのに対し、中学生は「いつでも友達と会話ができる」「友達との仲が深まる」が上位となっています。中学生の携帯電話用途も、「友達とのメールのやりとり」が94.9%とトップにあがっており、中学生にとっての携帯電話は、友人間でのコミュニケーションツールとして欠かせないものであることがわかります。（図3、4参照）

◆ネットの個人情報流出、中学生は「とても危険だと思う」8割に対し、親は「危険だと十分判断できている」が2割強

携帯電話はコミュニケーションツールであるとともに、子供の安全確認のためのツールとしての機能も大きく、安全目的で携帯電話やPHSを持たせている親は2割にのぼります。その一方で、子供に携帯電話を持たせることで生じる不安もみられ、「使いすぎ」「親の把握できない交友関係ができる」「出会い系やアダルトサイド絡みのトラブル」などのデメリットをあげる親が多くなっています。そこで、子供に携帯電話を持たせることで生じる危険について、子供自身の判断力をどのようにとらえているかを見たところ、ネット上に「名前や住所」が載ることについて、中学生は81%が「とても危険だと思う」と回答し、「顔写真」が載ることについても65%が「とても危険だと思う」と回答したのに対し、親は「危険だと十分判断できる」との回答はそれぞれ 24%、29%にとどまりました。子供の判断力に対して、親は慎重に構えている様子が伺われます。（図5、6参照）

◆携帯電話の機能、親のニーズは「アクセスサイト制限」「使用量・時間の制限」、子供のニーズは「ゲームや占い」など

必要だと思う機能では、親は「アクセスできるサイトの制限」「ネットやメールのアクセス量・時間の制限」「電源offと同時に位置情報が送信される」「子供が勝手に設定を変更できないようにする」などの意向が高くなっています。これに対して中学生は「パスワードがわからないと設定を変更できないようにする」「テレビ電話が使える」「危険なサイトには最初からアクセスできないように設定されている」の回答が多い結果となりました。また、ゲームや占いなどは親は「不要」と考える比率が高いのですが、子供の側のニーズは高く、「欲しい」は小学生では6割、中学生でも4割にのぼっています。また、子供はデザインや色が選べることも重要な要素と考えていることがわかりました。

調査概要

【調査対象】 (親) (中学生) インターネットコミュニティ「MyVoice」の登録メンバー
(小学4～6年生) 親調査の対象者を通じて回答を依頼
【調査方法】 ウェブ形式のアンケート調査
【調査時期】 2006年3月9日～3月11日
【回答者数】 2,021件 (親 1,216件、小学校4～6年生 405件、中学生 400件)

※本リリースは、NTTアド及びマイボイスコムより同一の内容を配信しております。重複して配信される場合があります。あらかじめご了承ください。

<本調査結果に関するお問い合わせ先>

株式会社 NTTアド マーケティング局

(TEL・FAX) 03-5745-7623・03-5745-7673

(URL) www.ntt-ad.co.jp

事業内容 (株)NTTアドは、NTTグループならではのネットワークを活用した情報活用業務に強い総合広告会社です。
・テレビ、ラジオ、新聞、交通、インターネットなどあらゆる媒体による広告展開およびセールスプロモーション、PR業務
・NTTグループならではのネットワークを活用した情報活用業務
・展覧会、博覧会、コンサート等、各種催物の興行ならびに各種セミナーの企画および実施 等

マイボイスコム株式会社 業務管理グループ 広報担当:中嶋

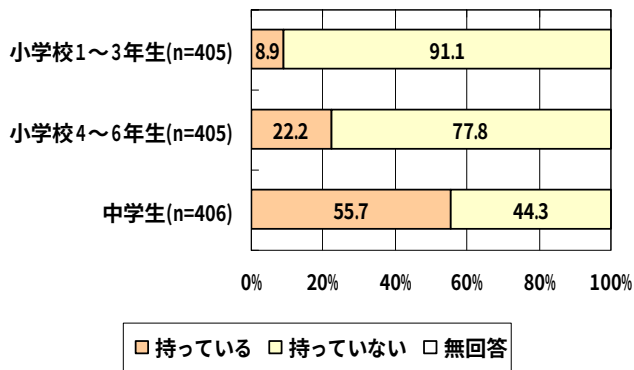
(TEL・FAX) 03-5217-1911・03-5217-1913 (Email) voice@myvoice.co.jp

(URL) www.myvoice.co.jp

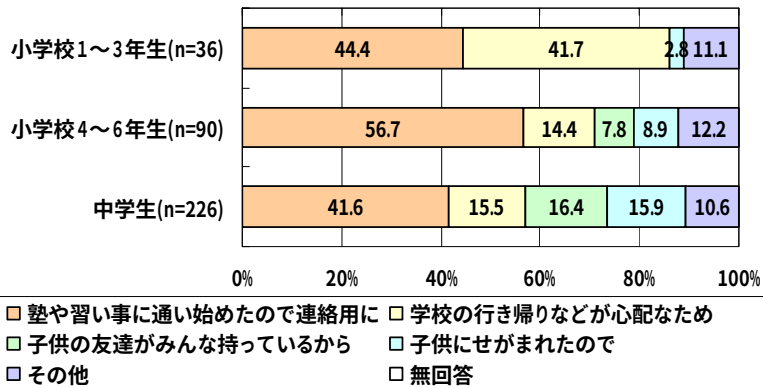
事業内容 マイボイスコム(株)は18万人のモニターを有し、企業の皆さまにインターネット調査を企画、設計、集計、レポート作成、ご報告までトータルにサポートしている『ネットリサーチ会社』です。
ネットリサーチ、広告評価、サイト評価、リサーチレポート販売 等

【参考資料データ】

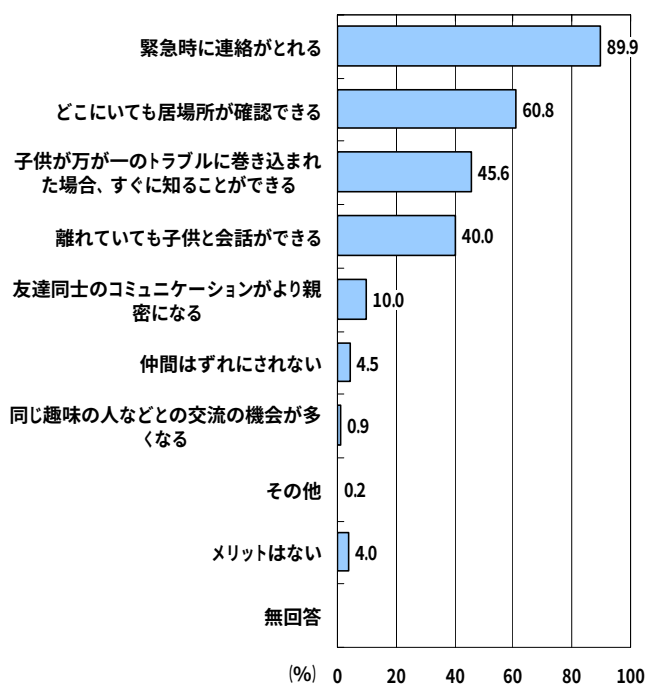
【子供の学年別 携帯電話の所有状況（親の回答）】（図1）



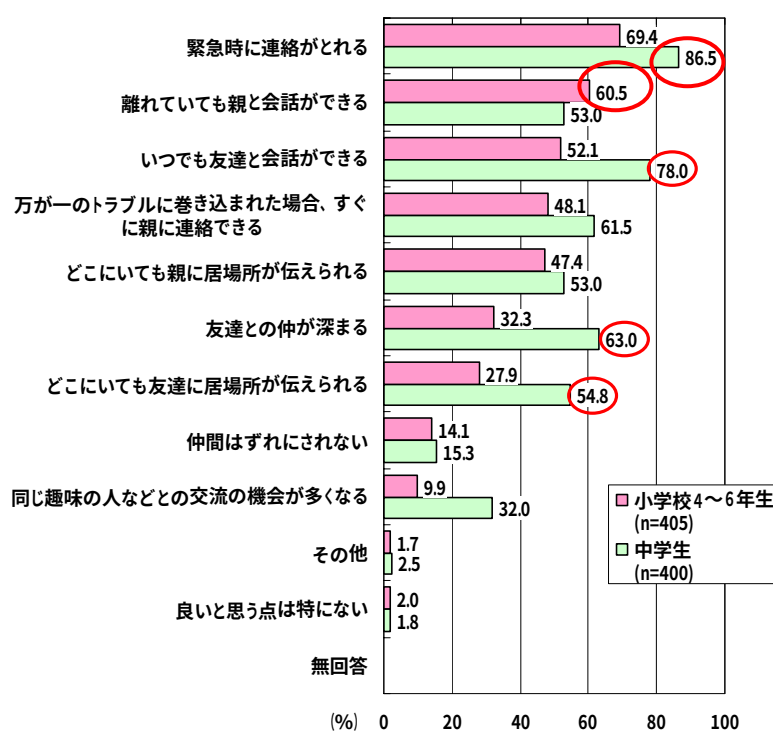
【子供の学年別 携帯電話を持ち始めたきっかけ（親の回答）】（図2）



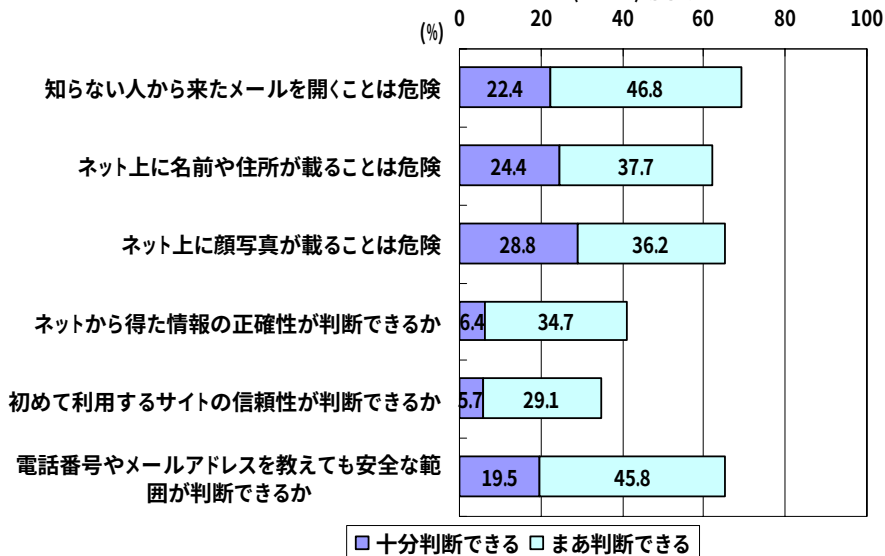
【携帯電話のメリット 親の回答】（n=1216）（図3）



【携帯電話のメリット 小・中学生の回答】（図4）



【子供がどの程度自己判断可能か（中学生の親の回答）】（n=406）（図5）



【自分がどの程度判断できと思うか（中学生の回答）】（n=400）（図6）

